

1. 概要

① 運営報告

- 市内の乳幼児人口は減少傾向にあり各園での定員割れが起こっています。自園では定員割れはありませんが今後の園児の充足については不安を感じるところです。今年度より試行事業として始めた0歳児の誰でも通園制度では市内の近隣園で行っている園がほとんどなかったため少し離れた区域の方にも興味を持っていただき自園を知ってもらおうきっかけとなりました。次年度の園選びから入園につながった方もいます。
- 昨年度作成した保育実践のチェックリストを基に保育を行った事でリーダー職員の気持ちが落ち着き、職員全体の保育実践に少し自信が出来たように感じられました。その中でさらに職員の評価表を作成することで一人ひとりが目標や課題意識を持ちモチベーションを上げて仕事に取り組めるように進めました。活用できるよう現在見直しをしているところです。
- 園の環境整備については園庭の大型遊具やウッドデッキのまくら木の劣化が見られ修繕をしました。昨年人工芝を敷き子どもや保護者、近隣の方にも好評でしたが夏場芝が暑くなり園庭で遊べる時間が少なくなっていたためサンシェードをつけることで快適に遊べるようになりました。
- SDG, sへの取り組みでの「地球フレンズ」において前年度はテキストや動画での学びが中心でしたが今年度は水のろ過実験をしたり遠足で水道局に行つて学びを深めたりごみの分別をするなど体験学習を増やし子どもたちがより身近なこととして捉えていけるよう工夫をしました。
また新しい食育のカリキュラムでは「ヒンナ・ヒンナ」に年長児が取り組みました。農家の方から食物ができるまでの過程を学んだり、現地直送の新鮮なメロンやサトウキビを味わいました。
- 災害対策については8月お盆期間に南海トラフ巨大地震の地震注意報が発令され解除されるまでの期間毎日園内で避難訓練をすることで大人も子どももいざ災害が生きた時にパニックにならず対応ができるようにしました。保護者にもネットやドキュメンテーションを通じて発信をし、職員で非常災害対策計画書を見直し、それぞれの役割分担について確認を行いました。BCPの研修を受けたりする中で児童施設としての地域的な取り組みについて考えました。

②定 員 現員 165名

1号認定児 15名 2号認定児 90名 3号認定児 60名

③事業日数 297日（日曜、祝日及び12月30日より1月4日は休園とします）

④開園時間 平 日7:00～19:00 土曜日7:00～18:30

⑤教育保育時間

区分	延長保育(早朝)	1号教育時間(4時間程度)	保育時間(8時間)	開所時間(11時間)	延長保育(夕方)
平日	7時00分から 8時30分	9時30分から 13時30分	8時30分から 16時30分	7時00分から 18時00分	18時00分から 19時00分
土曜日	7時00分から 8時30分		8時30分から 16時30分	7時00分から 18時00分	18時00分から 18時30分

⑥職員数

園長 1名、主幹保育教諭 2名、保育教諭 37名（うち非常勤 14名、看護師 1名を含む）

子育て支援センター、学童保育担当指導員（兼務） 1名、延長保育補助職員 6名
委託事業者からの派遣調理員 5名 現業員 2名、学校医、1名、学校歯科医、1名
学校薬剤師、1名（年間各2回検診）、事務員 2名

2. 教育保育運営

①教育保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド、一日の保育の流れを中心に子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感など）を育む。

④クラス編成及び職員配置

0歳児	バンビ組	15名	保育教諭	5名	
1歳児	バンビ組	23名	保育教諭	5名	
2歳児	ミニー組	25名	保育教諭	5名	(うち障がい児加配 2名)
3歳児	ダンボ組	36名	保育教諭	3名	(うち障がい児加配 1名) ※2号認定児 1名 ※1号認定児 1名
4歳児	ドナルド組	34名	保育教諭	3名	(うち障がい児加配 1名) ※2号認定児 1名 ※1号認定児 1名
5歳児	ミッキー組	35名	保育教諭	4名	(うち障がい児加配 2名 2号認定児 1名 1号認定児 1名)
主幹保育教諭		2名			
障がい児担当加配保育教諭		正職6名			
延長保育担当保育教諭		1名			
市基準加配保育教諭		2名			
延長保育担当保育教諭補助		7名(パートタイム職員)			
その他教育保育補助		7名(パートタイム職員)			

⑤教育保育内容

- 保育マニュアルが定着してきたことによりリーダーを中心に自信をもって保育を行うことができるようになっていきます。新人職員の育成ではチェックリストや一日の流れを丁寧に伝えチューター制度を取り入れるなかでわかりやすく職員同士も風通しの良い職場環境となってきました。
- 姉妹園との保育交流を深め、様々な研修や職員の動きや自己評価についての学び合いを行いました。
- 自立を目指す保育の中で今年度特に5歳児の子ども育ちの幼さが見受けられました。
親の生活環境から育児環境が充実しない事が一つの原因ですが、園で数年過ごしている子どもの様子から園の保育の見直しも必要であると認識しました。そのことから2、3歳児の教育に力を注がないといけない事が教育保育の課題となるのでそれを踏まえた上でクラス配置をおこないました。
- 乳児期から積み重ねてきている保育を5歳までつながりのある保育にするため各クラス見直しを行いました。
- 学童保育職員により、クラスの中で居場所の見つけられない子どもがクールダウンしながら落ち着いて自我を発散し自分の意志でクラスに戻り、クラスに溶け込めるような活動をおこなうことができ落ち着いて過ごすことができるようになっていきます。
- 虐待防止について昼礼で共有をしたり、職員が園内研修として人権研修を受け、学びを深めました。保護者の方には入園説明会、クラス懇談会、個人懇談で周知できるようにしました。
- 保育の中で保育実践評価表を作成しました。ヒト、モノ、コトの分類わけをして考え行事や保育内容をみていくことで職員一人ひとりがその内容に対してよい部分や課題に気づきやすく偏りなく物事を見ていけるようにしました。発表会の時に作成したのでまだ活用しきれていない部分もありますが今後も続けていきたいと思っています。

⑥家庭との連携

- 子どもや保護者に寄り添う保育の中で信頼関係がある程度できてきており SNS での苦情や管理職が対応しなければならない問題がほとんどなくなってきました。
クラスリーダー、担任が丁寧な説明をし、対応をすれば理解していただけることが増えています。
- 配慮が必要な子どもについては、子ども同志の育ち合いの部分や別の場所や少人数で過ごすことで保護者に理解してもらうように伝えています。
- 年2回のクラス懇談会、年1回の個人懇談会を行い、子ども達の一日の様子を映像や資料を用いて伝え現状の子どもの様子を報告しました。前期のクラス懇談会では職員のチェックリストをスライドにうつし保育士はマニュアルで動いていることを知ってもらい理解してもらえるように工夫をしました。また保護者の方にもテーマについて話してもらう時間を作り前期懇談会であがった課題に対して中期の懇談会ではその後課題についてどのようにお家で取り組まれたのか達成できたかを確認することでご家庭でも継続して取り組んでもらえるよう意義のある懇談会にできるようにしました。

⑦人材育成

- 他園での保育経験者が当園に入職されることも多く、白鳩のメソッドを理解し継承していくためにも、リーダー保育士が中心となって丁寧に OJT を行い「一日の保育の流れ」に沿った保育を徹底しチューターによって指導を強化し保育内容の均一化を図ります。
中堅職員の育成に力を入れリーダーシップをとれる職員を育てていきたいと思っています。
- ヒヤリ・ハット事項を記入する事で事故防止に努めており、怪我や事故が起きた場合に問題解決用紙をもとに園長、主幹保育教諭、クラスリーダー、保育上、看護師が保育の見直しを行い、話し合いを記録することで怪我や事故に対する責任意識が高まっています。怪我についても減少の傾向にあります。問題が起きた時の保育のエビデンスとして情報を発出する事ができます。引き続き怪我や事故を未然に防ぎ子どもが安全に過ごせるように環境整備に努めます。
- 園内（オンライン研修を含む）、園外（東大阪市保育士研修会、大阪府社会福祉協議会、日本保育協会等）の研修会に参加し、情報の収集、教育保育技術、知識を深め研鑽し、教育保育の質の向上を目指します。今年度は保育内容のほかに労務研修や経営に関する研修など保育のことだけに限らず現場の保育士が広く学び、知識を増やしていけるようにしました。管理職だけでなく現場保育士も様々な社会の情勢を知っていく必要があると考えます。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 子育て支援センター「アリスワールド」は、週2回、20組の親子を受け入れます。リーダーとともに、昨年に引き続き大学院生のアルバイト生を活用し、在園児のみならず地域の子育て家庭における子育てに対する保護者のニーズにあった活動を進めたいと思います。又、保護者が抱える悩みを担当保育士だけではなく看護師やクラス担任も相談に応じ子育ての問題を共有化しながら、在宅の子育てに少しでも関わっていければと考えます
- 保健センターとの連携により保育所体験事業「デイジーワールド」も年間20回開催する予定で、育児不安を抱える地域の親子に対する支援を行います

- 地域商店街との関わりが増え自園の運動会にマスコットキャラクターのひょうたくんが来てくれ、歌をうたうなど演目の幕間つなぎをしてくださり盛り上がりました。また商店街行事である「初午大祭」での練り歩きや「ひょうたんやま音楽祭」でのマーチングへの参加をしました。また、地域商店街の方がアメリカ人のサンタクロースを紹介してくださったり、節分のなど園行事へも協力・参加をして頂き子ども達も大喜びでした。
- 近隣小学校との連携を図るきっかけができ、就学前の子どもを入学する前に学校へ招待していただき小学校体験をしてくださいました。今後も色んな行事や日常の教育、保育場面での交流、合学び合いを行い、連携を深めていきたいと思ひます。

⑨苦情解決

- 第三者委員2名の設置を行い、委員の所属、連絡先を「苦情解決のしくみ」とともに玄関ボードに貼り出し保護者に周知します。園長を苦情解決責任者、主幹保育教諭を苦情受付担当者とし、転園や卒園後のご意見やご相談についても保育教諭や看護師、栄養士などが相談の窓口として受付けます。
- 4月初めにSNSでの苦情が1件、手紙や書面での苦情1件ありました。
SNS発信についての危機管理に注意を注ぎ保護者の方に園と保護者会より悪質な口コミをやめようよう注意喚起をしました。また直接保護者の方からの意見を聞き、正しく解決につなげられるよう「ご意見箱」の設置をとり止めました。それ以後はSNS、書面での苦情はなくなっています。
- 今後も寄せられた意見や要望についての回答書には、随時「コネクト」での回答を送信します。協議中の事案については途中経過についてもコネクトで情報の発信をする予定です。
- 送迎時や個人懇談、保育を楽しむ日、クラス懇談会、個人懇談会などを利用しながら、保護者とのコミュニケーションを築くようにしています。

⑩リスクマネジメント

- 救急看護、嘔吐処理、SIDS対応等医療に関する情報の伝達や研修については看護師が中心となり危機管理と園内の保健に関する活動を進めました。特に誤嚥事故が起こらないように注意をしました。
- 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の改定に基づいた食物アレルギーに関する研修を今年度はズームで行い、全職員で内容を理解し、アレルギーによる事故を防ぎ、マニュアルに基づいて安全な食事提供を行いました。
- あらゆる災害を想定した毎月1回の避難・消火訓練の実施（火災、地震、水害等）、消防署と連携して12月1日に総合災害訓練を行いました。
- 警察署と連携しての不審者対応の訓練は実施出来ませんでした。次年度行います。
- 日本赤十字社指導員による救急研修会を園内研修として5月に2回行いました。
- 自然災害や突発的な感染症に備え備蓄品を毎月1回確認し、賞味期限や不足品などの把握を行い常時補充を行います。期限が切れそうな食品については給食材料として利用し、無駄のないように使用しました。また、毎月1回非常用持ち出し袋を全クラスで確認し、非常事態にそなえました。

●ヒヤリハット活動は日々おこなっています。大きなインシデント事故に繋がらない様ヒヤリハット活動を必ず行う事を保育の一環としています。これにより病院に受診する事故は減っています。

●BCP の作成を行い、活用するために行政の活動が必要と考え行政に問いかけていますが進んでいないのが現状です。

⑪工事、備品の設置購入報告

ビニールプール 2 台購入（4 月）

塗装、補修 1 階、2 階、園庭まくら木取り換え（5 月）

屋外手洗い場修繕（6 月）

サンシェード取り付け（10 月）

ジャングルジム修理（11 月）